

We Support

unicef 

モルディブの子どもたちにも届けたい。 明日の笑顔と未来のために

「ユニセフ指定募金「モルディブのすべての子どもに栄養と未来を」視察報告」



「今、モルディブに 支援が必要な理由」

モルディブは2011年に「中所得国」の仲間入りを果たした観光立国です。しかし、リゾートの印象が強く、問題が見えづらい国でもあります。小さく、遠く点在する島々で人々が孤立して生活している地理的環境のために、物資、医療、学校教育を十分に行き渡らせるのが難しいのが現状で、政府による全国的なモニタリングでさえも困難にしています。

また、民主化や地方分権への試みが始まったばかりの「変革期」である今、この国に必要とされている支援は現地の人材を育て、人々が問題解決のために参加できるしくみをつくることです。人材を育て、持続可能なしくみをつくる…。目に見えづらい支援ですが、変化の中で後回しになりかねない子どもの栄養と環境教育という分野を後押しするために、現地ユニセフ事務所も奮闘されていました。

「保健カードの導入で、 発育測定に保健センターに 来る親子が増えています」

2007年から導入されたユニセフの「保健カード」は、5歳までの子どもの成長を記録する日本の母子手帳のようなもの。発育グラフのほか、予防接種やビタミンA（微量栄養素）投与も記録し、就学時にはカードで予防接種履歴などをチェックできます。

「保健カード」の普及により、各保健センターでの発育状況の把握はできるようになった一方、島々が分散しているので、政府が主導して行うべき集計やデータ収集も難しい状況です。



▲ユニセフの保健カードを持って
発育測定にきた親子

2010年～2013年秋まで3年間取り組む「モルディブのすべての子どもに栄養と未来を」指定募金では、子どもの「栄養不良の改善・予防」と「環境教育」のプロジェクトを支援しています。コープかながわでは9月22日から29日まで、職員1名がモルディブを訪問しました。皆さんからの募金がどのように生かされるのか、現地のようすをお知らせします。



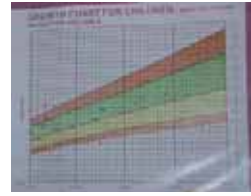
コープかながわ
組合員活動部職員
関山 万里子

皆さんの募金は…

全国的に栄養改善をすすめるためのしくみづくり・教育広報に使われます

今後、全国規模で

栄養改善をすすめるためには、政府が子どもの発育を把握することが必要です。皆さんからお



▲保健センターでは発育グラフをもとに、改善が必要な家庭に栄養指導を行っている

寄せいただく募金は、保健省とともにすすめる「モニタリングのしくみづくり」に生かされます。

このほか、各家庭に戸別訪問し、母乳育児の方法や感染症の注意喚起など、直接アドバイスするための保健員の教育・派遣、ツールの作成、予防接種時の親子の島しょ間移動の負担を減らすため導入が計画されている「5種ワクチン※」の広報や保健カードの表記変更にも募金があてられます。

※5種ワクチンとは、一度に5種類(3種混合、Hib、B型肝炎)のワクチンを予防接種できるもの。

なぜモルディブに支援が必要なの？

モルディブはインド洋に浮かぶ1,200の島のうちおよそ200島に国民約35万人が分散しています。日本では観光大国のイメージですが、リゾート島とは違い国民が暮らす島では、栄養と環境教育について克服すべき課題が多くあります。栄養の面では微量栄養素が不足する食糧事情、保護者が栄養や母乳育児について正しく理解していない現状があり、5歳未満の子どもの3人に1人が栄養不足です。これは、すべての島々に教育や医療をいきわたらせることが難しい地理的条件にも起因しています。環境の面では、海拔1mのサンゴ礁でできたぜい弱な島々は海面上昇で真っ先に沈んでしまうといわれており、未来を担う子どもたちがこの現状を知り、くらし方・行動を変容していくことが急務となっています。このプロジェクトがモルディブの5歳以下の子どもたち3万2千人に行き渡る支援であることや、募金活動を通じてモルディブの実情を知り環境教育の必要性を発信していきたいという理由から、コープかながわでは(公財)神奈川県ユニセフ協会の呼びかけで指定募金として取り組んでいます。

海面上昇の影響を受ける島で深刻なゴミ問題

ひとつひとつの島はインフラを完結する面積がなく、ゴミを分別して処理する場所も確保できない状態です。視察先のマアフィ島では1カ所に集められたゴミが山積みになり、プラスチックなど燃えないものはそのまま海へ流れています。島の土台であるサンゴ礁を破壊するだけでなく、ゴミからデング熱の原因となる蚊を発生させ、健康被害を及ぼしています。

子どもたちは地域に広げる伝達役コンポストづくり

環境教育のモデルとして、マアフィ島ではユニセフと連携するNGOと生徒によるコンポスト(堆肥)と学校農園づくりが行われています。作物が育ちにくいサンゴ礁の島では、生ゴミを減らしつつ、農作物の土壌も作れる有効な取り組みです。



▶生ゴミの削減、肥料づくり、農作物育成による栄養改善が期待されるコンポストづくり



▶海面上昇で根こそぎ折れてしまった木

生徒たちが「伝達役」となり、島にはコンポストづくりに挑戦する家庭が現れてきます。家庭菜園として広がれば、新鮮な野菜を手ででき、栄養改善の効果も期待されます。今後、皆さんの募金でほかの環礁にも取り組みを広げていきます。

モルディブの子どもたちに栄養と未来を届ける

「モルディブ指定募金」

通年、募金を受け付けています。

■おうちCO-OPでは

注文用紙・eふれんずで承ります。

◆1口100円を募金 申込番号 4169

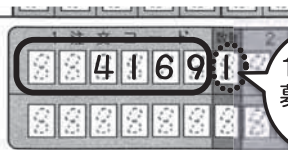
1口1,000円を募金 申込番号 4165

◇おうちCO-OPポイントでも募金できます!

1口100円を募金 申込番号 3872

1口1,000円を募金 申込番号 3873

※ポイントの残高から清算されます。ポイント残高が募金の合計金額に満たない場合、募金できません。



100円を募金する場合

■店舗では

サービスカウンターにお持ちください。

※ふれあいポイントカードでも募金できます。(1口100円から)

ユニセフモルディブ事務所所長 ゼバさんからのメッセージ



これらの支援には今後も長い時間が必要です。私たちは、寄せられた募金を、計画とモニタリングに基づき、できる限り、効率的に用いております。そして、このプログラムが将来にわたって持続していくことを願っています。本当にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

【視察に参加して】日本人が知らないモルディブの姿を見ることができました。意識や行動を変えていく地道な支援ですが、分岐点に立つモルディブをよりよい方向へ導くプロジェクトの意義を実感しました。